

令和6年度 桃井小の教育



明治7年に建てられた校舎の中央に掲げられた校名額は、今も大階段に設置されています。

鈴木貫太郎先生の教訓「正直に腹を立てずに撓まず励め」を基盤に
学校教育目標 **徳・知・体の調和のとれた人間性豊かな児童を育成する**

徳 明るく、思いやりのある子

自他の意見や行動を尊重し、ちがいを認め合い、優しく温かな心情をもつ児童を育成します。そのために、一人一人に居場所があり、自己実現のチャンスが与えられるようにします。

知 よく考え、すすんで学ぶ子

学びの本質的楽しさを知り、よりよい選択ができ、自分をコントロールしながら意欲的に学習する児童を育成します。そのために、「教えること」と「導くこと」をバランスよく取り入れた授業を工夫します。

体 たくましく、ねばり強い子

基本的な生活習慣を保持し、体と心を鍛え、最後まであきらめないで努力する児童を育成します。そのために、学校教育の中に、「体の芯からわき上がる力を感じながら、全力を出し切る瞬間」を創り出します。

具体的な取り組み

徳

明るく思いやりのある子を育てるために

- ・ 道徳教育を充実させ、自己肯定感と思いやりの心を持ち、自分も他人も大切にできる児童を育てていきます。
- ・ 多様な人との関わりを通して、互いに認め合い、ともに高め合おうとする心、優しさや思いやり、コミュニケーション能力の育成を図ります。
- ・ 集団生活の約束を守って生活することの大切さとよさを自覚できるようにします。
- ・ 一人一人にとって、安全・安心で居心地のよい学級づくりに努めるとともに、スクールカウンセラーや通級指導教員等なども含めた組織的な対応で、いじめや不登校の無い学校を目指します。
- ・ 豊かな自然と接する体験活動を通して環境教育を推進します。
- ・ 人の心や体の痛みを共感できる「想像力」を育て、平和で豊かに暮らすための調整力を育成します。

愛校心と郷土愛の涵養

- ・ 第一コミセンとの連携を密にして、多様な活動を取り入れることにより、より豊かな教育活動を実践します。
- ・ コミュニティ・スクールの視点で地域と連携・協働し、学校から地域に発信するなど、能動的な児童の活動を工夫します。
- ・ あいさつ運動やボランティア活動を積極的に進め、地域への帰属意識や社会貢献する喜びを感じる児童を育てます。

知

よく考えすすんで学ぶ子を育てるために

- ・ 授業では、「めあて」と「振り返り」の場を保障し、問題意識や解決への意欲と見通しを持たせ、主体的な学びが行えるように努めます。
- ・ 他者との協働を通して、自らの考えを広げ、深める「対話的な学び」の過程を大切にします。
- ・ 問題解決の過程の中で、習得・活用・探究の場を工夫し、納得と実感を伴う「深い学び」の具現化を図ります。
- ・ 体験的な活動やICT機器の効果的な導入を推進し、将来に通じる思考力・判断力・表現力を育成します。
- ・ 世界の文化や暮らしに関心を持ち、自国や他国の人の意見に耳を傾けながら、「平和」な世界を築くために自分ができることを探究するポジティブな心を育成します。
- ・ 総合的な学習を通して、問題の解決や探究活動に主体的に取り組み、よりよい生き方を考えられる児童を育成します。
- ・ 家庭と連携して、学年の発達段階に応じた家庭学習習慣の確立を図ります。



体

たくましくねばり強い子を育てるために

- ・ 「はやね、はやおき、朝ごはん」を意識して、感染症等に負けない体づくりができ、自分の健康を自分で守れる児童を育てます。
- ・ 授業や体育的行事等を活用して、運動の楽しさを味わわせ、生涯にわたって運動に親しむ態度を育成します。
- ・ 目標をもって、継続的に運動に取り組み、持てる力の全てを出し切ることのすばらしさを実感できる児童を育てます。
- ・ 一人一人が目標を設定して取り組めるようにすると共に、成長や向上の記録を振り返ることができるよう工夫します。
- ・ 安全点検の励行や安全教育、健康教育を積極的に推進し、健康で安全な学校づくりを進めます。

基本的生活習慣の確立

- ・ さわやかなあいさつ、元気な返事のできる児童を育て、「礼を正す」ことの大切さを意識できるようにします。
- ・ 清潔感のある身だしなみ、適切な言葉遣いができる児童を育て、「心を整える」力を醸成します。
- ・ 一生懸命に掃除に取り組み、身の回りの整理・整頓ができる「学びの場を清められる」児童を育てます。
- ・ 「時を守る」など、当たり前のことを大切にし、習慣化できるようにします。

開校150周年スローガン

次の一歩 その先へ！



SINCE 1872

